

結果(協働) (平均的意識値 市民=1.27 行政=1.21)

- 回答の数値化 : a(2点)=肯定する(はい)、b(1点)=どちらかと言えば肯定する、c(-1点)=どちらかと言えば否定する、d(-2点)=否定する(いいえ)、未記入(0点)=該当せず
 ○ 区分 : 市民・行政それぞれの全体の平均値に対し、I = 市民・行政ともに全体の平均値を上回ったもの、II = 市民・行政ともに全体の平均値を下回ったもの、III = 市民・行政の数値に0.3ポイントを超える開きがあったもの

全体的な傾向	<ul style="list-style-type: none"> ◆ A-1~E-4の設問に対する意識数値の平均値は 市民=1.27、行政=1.21 となっており、全体的に見ると双方の間に大きな意識差は無く、満足度が比較的高い結果となった。また、双方の回答の傾向もほぼ一致している。 ◆ A~Eのブロックごとに見ると、いずれの段階においても、市民・行政ともに高い数値となっている。特にD(協働の意識度)においては、D-3(まちづくりの進めやす)で若干ポイントが下がった結果となっているが、市民・行政ともに協働に対する意識の高さが示された結果となった。これと連動し、A(準備の段階)-2(協働することの認識)のポイントが高くなった。C(検証・評価の段階)、E(推進方策の有効性)については、ともに平均値を下回るものと若干の意識の差が見られた。 ◆ 個々の項目を見た場合、協働の効果、協働したことよっての事業効果に対して、双方ともに高い意識があらわれた結果となった。
--------	--

Aブロックの傾向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準備の段階では、回答の傾向は概ね一致している。A-1(情報の入手)については、0.46ポイントの差が生じた。 ・ A-3(準備期間)に対して、市民・行政ともに約8割が肯定的に回答しているが、b回答の比重が高いこと、c回答がいずれも15%あることことから数値が下がっている。
----------	---

区分	設問	A	市民の意識値	結 果	市民の 主な自由意見	行政の 主な自由意見
		B	行政の意識値			
		C	差(A-B)			
III	A-1	市民	1.38	・情報の得やすさについて、行政はb回答の比重が高く、c、dの合計も2割を超えており、行政が若干情報を得にくい状況がある結果となった。	・市内において、地域によって考え 方・捉え方・事業の受け入れ方が違う 状態で、まだ理解不十分なままに募集 が始まっていた。どこの地域でも円滑 に受け入れられると言う様子ではな かった。 (*その他:「インターネット整備 を」・「行政の制度周知不足」など3 件あり)	・選考会の開催等により、必要な情報 を入手することができた。 ・イラストや目に付きやすい書体を 使ったチラシを用意するなどの工夫を 行なった。 (*その他:「事例研究」・「準備組 織」など3件あり)
		行政	0.92			
		差	0.46			
I	A-2	市民	1.59	・協働することによって得られる効果 について、市民・行政ともに9割以上 が肯定的回答をしており、ともに高い 数値となった。		・目的は明確であるが、各論部分に入 ると議論が後戻りするなど、事業実施 に結び付けるまで苦慮した。 (*その他:「目的は明確であっ た」・「市民の主体性が発揮された」 など3件あり)
		行政	1.71			
		差	-0.12			

区分	設問	A B C	市民の意識値 行政の意識値 差(A-B)	結 果	市民の 主な自由意見	行政の 主な自由意見
II	A-3	市民	0.9	<p>・準備期間（時間）について、行政は約8割が肯定的回答をしているが、c回答も15%となったため数値は1.05ポイントと低めの結果となった。市民も行政同様の回答分布となったため、意識差は生じなかった。</p>	<p>・説明会から申請書提出までの期間が短い。 ・準備期間が、商店会、自治会の組織構成が立ち上がる4月下旬以降となるため、どうしても準備が遅れてしまう点を改善しなければならない。 （*その他：「準備時間が不十分」・「スケジュールの制約を受けた」など4件あり）</p>	<p>・当初、団体の組織体制が不十分だったため、調整に時間がかかった。 ・申請書受理の時点で、事業内容が確定していない場合があった。 （*その他：「申請書作成支援の必要性」など2件あり）</p>
		行政	1.05			
		差	-0.15			
	A-4	市民	1.29	<p>・協議の円滑性について、市民・行政ともに8割が肯定的回答をしているが、市民のa回答率が高かったため、市民が行政の数値を上回った結果となった。</p>	<p>・行政のお膳立てがなく、すべて白紙のスタートは良かったが、方向性が定まらないロスがあった。 ・定期的集る場所と日程を、早期に決めたので、安心して会議を進めることができた。 （その他：「協議の場・情報交換不足」・「行政の協力的・信頼があった」など12件あり）</p>	<p>・事業実施にあたって、随時、役員会、幹事会を開催し活発な意見交換や提案等ができる環境にあった。 ・毎月開催される会議に市職員がオブザーバーとして出席し、事業の準備に関する内容把握に努めており、情報の共有化などの連携が図られた。 （*その他：「協議の場が整い、情報の共有化や調整が図られた」など4件あり）</p>
		行政	1.17			
		差	0.12			

Bブロックの傾向			・事業実施の段階では、行政の回答はいずれも高い数値となっており、双方の役割分担が適切だと認識していることが伺われる。			
区分	設問	A B C	市民の意識値 行政の意識値 差(A-B)	結 果	市民の 主な自由意見	行政の 主な自由意見
I	B-1	市民	1.35	・実施段階における情報共有・協議の場の設定について、市民・行政ともに、約6割がa回答、約3割がb回答となっており、数値は双方高くなっている。	・ディスカッションの時間が足りなかったと思う。 ・テーマが大きく、時間不足、議論不足が歪めない。	・事業実施の段階においても、団体の運営委員会等に出席することにより、事業実施に関する内容把握をしているため、概ね順調に事業の実施ができています。 ・事業の進捗状況の中間報告や変更にあたっての相談があまりなかった。 (*その他:「市民の自発的な会議に行政の適切な支援」など5件あり)
		行政	1.45			
		差	-0.1			
	B-2	市民	1.23	・協働の原則である役割分担について、行政は9割以上、市民は8割以上が肯定的回答を行っており、双方全体の平均値を上回る結果となっている。ただし、市民の15%(8件)がc回答としている。	・準備の段階では、市民中心となって進めることができたが、イベント当日はまだ市が押さえ、市民を遠ざけているところが見える。1年間一緒に準備をしたのだから、協力できるメンバーともっと一緒に汗をかくべきと提案している。 ・担当課とNPOの役割分担がはっきりしており、業務も円滑に進んだ。	・行政としては、事務引継ぎを進めて行く中で、市民に任せられることは率先して任せて行くが、広報や会場の予約などの役割は、今後も継続して担って行く。 ・事業をさらに発展させて行くためには、行政と市民の役割分担、協力体制等を見直していく必要がある。 (*その他:「市民の主体性を尊重」)
		行政	1.29			
		差	-0.06			
	B-3	市民	1.17	・行政の担う役割について、市民の85%はa・b回答をしているが、残り15%がc回答としていることから、市民の行政に対する評価が低くなっている。行政の自己評価は、b回答の比率が高いため、市民との数値差は生じなかった。	・予算面での対応は、行政がしっかりやってくれた。 ・助成金以外の部分で行政が協力できること(広報や後援、場所の提供など)が明確になっていると良かった。 ・担当課以外の全庁的合意が希薄。 (*その他:「行政が役割を果たしていた」など11件あり)	・財政支援、場所の提供、活動の支援など、行政として適切な役割を果たしていたと思う。 ・公共施設の利用にあたっては、担当課から事前に依頼することによってスムーズに進めることができた。 ・助成金の交付と言う点では適切だったが、変更協議・助言・広報の役割が不明確。
		行政	1.37			
		差	-0.2			
III	B-4	市民	1.08	・市民の担う役割について、行政は市民を高く評価しているが、逆に市民はb回答の比率が高く、c、dの回答が15%となったことから、意識差が現れた結果となった。	・適切な提案を行政に行なうことができなかった。 ・4年目を迎え、ややマンネリに流される傾向はあったが、ボランティアの方などを委員に迎え、乗り切ることができた。 ・市民が参加した点はベター。70万市民には識者がいる。	・実行委員、参加団体、ボランティアは自らの役割を十分に認識し、十分な活動をしていた。それにより事業は大いに盛り上がった。 ・構成団体・個人は、積極的に事業に参加し、各種イベントを盛り上げることができた。 (*その他:「各々の役割を果たし成功・期待」など5件あり)
		行政	1.45			
		差	-0.37			

Cブロックの傾向				<ul style="list-style-type: none"> ・行政は市民と協働することによる事業効果を高く評価する結果となっている。 ・実施の段階ではほぼ平均的な評価（行政は高く評価）をしているが、実施後の成果の公表、取り組んだ協働事業の振り返りについては、b回答の比重が高くなったこと、c回答も2割程度あったことから、行政も低い数値となった。 		
区分	設問	A B C	市民の意識値 行政の意識値 差(A-B)	結 果	市民の 主な自由意見	行政の 主な自由意見
I	C-1	市民	1.5	<ul style="list-style-type: none"> ・協働による事業効果について、行政はa回答71%、b回答29%、10%肯定的回答となっている。市民もA-2（協働の効果の認識）同様、約9割が肯定しており、双方ともに高い数値となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・離れた場所で、当初は手も足りないため声をかけていなかった場所についても、担い手自身が課題を見出し自発的に改善に着手することによって、従来のもより良い物ができた。継続によって担い手の意識が高まっていった。 （*その他：「生きがいにつながるなど効果が高められた」など、6件あり） 	<ul style="list-style-type: none"> ・スローガンの決定、ポスターの自治会掲示板への掲示、総合案内の内容刷新など、市民からの新しいアイデアがいくつも取り入れられ、実行委員会は常に事業を盛り上げるためにどうすればいいのかを考えるようになった。行政が主催していた頃は、このような主体的な動きはほとんど見られず、実行委員会の自主運営となってから事業が活性化した。（その他：「実行委員会でも検証・評価について協議」について1件あり）
		行政	1.71			
		差	-0.21			
I	C-2	市民	1.3	<ul style="list-style-type: none"> ・協働事業における市民の特性の発揮について、行政は9割が肯定的に評価している。市民も8割が肯定的に評価をしており、意識差は見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動として、企画・実施のほとんどを市民ボランティアが行なうことを徹底し、行政は必要事項を必要時のみに支援することに徹してもらった。 ・市民サイドの要望に基づいていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が市民を支援することにより、市民の立場を理解し、より適切な支援をすることができた。 （*その他：「広報協力により、広く市民に周知できた」など4件あり）
		行政	1.29			
		差	0.01			
II III	C-3	市民	1.18	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効果・成果等の公開について、市民の8割、行政の7割が肯定的回答を行なっているが、市民・行政ともにc、d回答があり、特に行政は24%がc回答、d回答を合わせた回答が約3割となっていることから、0.42ポイント行政の意識が低い結果となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当課だけでなく、市の広報とも連携できればなお良い。 ・地域住民への公開・情報提供は十分行われたと思っているが、住民の関心・反応は低い。 （*その他：「評価を行っていない」「定例会による報告、意見交換」など3件あり） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページでの事業の公開にとどまり、十分な検証およびその公表には至っていない。 ・行政との協働で実施している事業について、その実績や効果などを集約してPRするような取組みがあっても良いかもしれない。 （*その他：「広報の方法に課題」など5件あり）
		行政	0.76			
		差	0.42			

区分	設問	A	市民の意識値	結 果	市民の 主な自由意見	行政の 主な自由意見
		B	行政の意識値			
		C	差(A-B)			
II	C-4	市民	0.87	<p>・ B-1 実施の段階での協議については良好な結果が出ているが、C-4 (事業終了時の課題整理) では、市民・行政ともにb回答が高く c、d の回答もともに2割あることから、双方の数値が下がっている。実施段階と終了段階での双方の協議の場を比較した場合0.5ポイントを超える開きがある。</p>	<p>・ 反省の面の会議を行なって欲しい。 ・ 今後の課題があったものの、最後は打ち上げで終わらせてしまい、来期へ残すべきノウハウをまとめることができなかった。 ・ 協定を結んで半年経過した時点で、課題や要望を出し合う話し合いの場が持たれた。 (*その他:「実施することが精一杯」など2件あり)</p>	<p>・ 対等に話ができる環境が徐々にできてきた。 ・ 事業への参加者のアンケート等から反省点を話し合い、次回の事業実施の際に活かすようにしている。 ・ 随時話し合える環境にはあるが、まだ気を使ってしまう。 (*その他:「課題の共有に至っていない」など2件あり)</p>
		行政	0.81			
		差	0.06			

Dブロックの傾向				<p>・D-1・2・4については市民・行政ともに高い数値となっており、回答の傾向も同様であるため意識差は生じていない。唯一、D-3（まちづくりの進めやすさ）について、市民回答同様に行政もb回答の比重が高くなっているが、市民の1割がc回答としているため、数値が下がる結果となった。</p>		
区分	設問	A B C	市民の意識値 行政の意識値 差(A-B)	結 果	市民の 主な自由意見	行政の 主な自由意見
I	D-1	市民	1.71	<p>・協働による団体・組織のメリットについて、市民・行政の意識差はなく、双方ともに9割以上が肯定していることから高い数値となっている。（双方c・d回答はなかった。）</p>	<p>・助成金の交付が事業の立ち上げのきっかけになった点、また、市の助成を受けたことが対外的な信用を高めたメリットは大きいと思う。 （*その他：「メンバーの固定化はあるが、社会奉仕の意識が高まった」など8件あり）</p>	<p>・実行委員会の委員自ら事業を盛り上げ、事業効果の向上を担うという意識をより強く持つようになった。参加者の裾野を広げ、各主管団体の組織拡大にも繋がったため、団体にとってのメリットは大いにある。 （*その他：「団体間の連携の促進」など6件あり）</p>
		行政	1.67			
		差	0.04			
I	D-2	市民	1.65	<p>・信頼関係について、D-1のメリット同様、市民・行政ともに9割以上が肯定的回答をしており、双方ともに高い数値となっている。</p>	<p>・行政がどう思っているのかを、逆に知りたいと思う。お互いに、個別ではなく一緒に検証する場が設定されると良いと思う。</p>	<p>・協議及び事業実施を継続する中で一定の信頼関係が築かれてきた。 ・作業を分担することができるようになるなど、徐々にメンバーとの信頼関係が構築されてきている。 （*その他：「申請書・報告書作成の負担感」など7件あり）</p>
		行政	1.46			
		差	0.19			
	D-3	市民	1.15	<p>・協働したことによって、D-2の信頼関係については高い数値となっているが、進めやすさについてはこれと連動せずに、若干低いポイントとなった。なお、市民の回答においては、未記入が13%を占め（C・Dの段階でそれぞれ約8%）であり、事業が終了していないことから回答が保留されているものと推察される。</p>	<p>・かねてより活動してきたが、要綱ができ市との正式な協定に基づく活動として社会的に認知されたことはありがたいと思う。 ・このような事業を多数立ち上げ、成果をあげていくためには、行政の連携・協力がまだまだ必要と思われる。 ・庁内の整合性が協働の障害になることを感じた。 ・事業の継続は市民サイドにだけゆだねられている。</p>	
		行政	1.36			
		差	-0.21			
I	D-4	市民	1.8	<p>・協働事業の継続意識について、D-1、D-2同様、市民・行政ともにa回答が7割を超え高い数値となっており、意識差も見られない。</p>	<p>・市民一人ひとりにとって非常に重要な課題であり、そのためにも、十分周知徹底を図る必要からも事業継続することが大切と考える。 （*その他：「今の関係を維持する」など6件あり）</p>	<p>・協働形態を継続し、より発展させ、市民主体による運営を目指して行きたい。 ・様々な主体が連携・協力することによって、事業の活性化が図られるので、今後も構成員としての参画を期待したい。 ・市民主体の実行委員会方式で、今後も継続したい。</p>
		行政	1.69			
		差	0.11			

Eブロックの傾向				<p>・今後の協働事業の推進にあたり、手引き・マニュアル、事例集・報告会については、概ね有効なツールと認識された結果となった。</p> <p>・条例については、市民の約7割が肯定的回答を行なっているが、行政はa・b・c・dすべてに回答が平均的に分布し、マイナスの数値となった。</p>		
区分	設問	A B C	市民の意識値 行政の意識値 差(A-B)	結 果	市民の 主な自由意見	行政の 主な自由意見
	E-1	市民	1.2	<p>・今後協働事業を推進する上での手引き・マニュアルの有効性について、市民・行政ともに約8割が有効と回答しているものの、c・d回答が1割を超えていることから、数値がほぼ全体の平均値と一致している。なお、市民・行政ともに同様の意識数値となっている。</p>	<p>・何か行動を起こす際には、ガイドライン・後ろ盾があると動きやすい。</p> <p>・マニュアルは最低限のことで良いと思う。あとは地域が工夫することが重要。</p>	<p>・一般的なガイドラインや枠組みを定めても、実態を伴わないようではあまり意義はないのではないかと。</p> <p>・手引き、マニュアルは、先進事例のやり方を参考にできる点で大変有効。 (*その他:「主催・共催など言葉の定義の統一化」など3件あり)</p>
		行政	1.22			
		差	-0.02			
I	E-2	市民	1.29	<p>・事例集、報告会の有効性について、E-1同様、市民・行政ともに8割が有効と回答しており、双方の意識差も見られない。ただし、行政の13%はどちらかと言えば否定するに回答している。</p>	<p>・活動を知ってもらうことは、メンバーの意識向上につながり、また来期のメンバー募集も容易になる。</p> <p>・同一の事業実施者の交流会が年に1~2回程度あっても良いのではないかと。</p> <p>・市民の認知度が不十分。</p>	<p>・具体的な取組事例を紹介することは、協働を広く市民へ普及・啓発する機会となると共に、取り組んだ事業の透明性が高まるものと思う。</p> <p>・様々な取組事例がまとめられることは、今後の連携・協力を進める上での新たな発見につながる。</p>
		行政	1.24			
		差	0.05			
II III	E-3	市民	0.73	<p>・条例の有効性については、全体的に見ると、市民・行政ともに低い数値となった。回答の分布も、市民・行政ともにa・b・c見解が分かれた結果となっている。特に行政の回答では、c、dのチェックが5割を占め、市民との意識に大きな乖離が現れる結果となった。</p>	<p>・条例と言うイメージは硬い。</p> <p>・ことボランティアについて言えば、メンバーの主体性と意識の向上に任せるのが最良と考える。条例(ルール)とは、理性のレベルで人が実行できれば良いことができないため、法という形で制限を加えるものであり、人に「やらせている感」を与えるので、好ましくない。</p> <p>・市民活動の活性化や自主性が損なわれないこと。</p>	<p>・従来も市民参加型の事業として審議会や委員会、実行委員会、公募委員の募集等の手法があり、市の施策を実現する手段として利用されてきたものと思う。条例を制定することが、従来と同じように市の施策を実現するためのものになってしまい、市民の意識を行政との連携に向けて行うことができるかどうか不明である。</p> <p>・即効性はないと思うが、人的要素に関わらず、広く市民が負担を感じることなく関わることのできる環境が整う。</p>
		行政	-0.08			
		差	0.81			

区分	設問	A	市民の意識値	結 果	市民の 主な自由意見	行政の 主な自由意見
		B	行政の意識値			
		C	差(A-B)			
Ⅱ Ⅲ	E-4	市民	1.11	<p>・提案制度による事業提案について、市民の7割以上がa・b回答をしているが、行政はb回答の比重が高く、どちらかと言えば否定するにも2割の回答があり、市民と比較し0.4程度の意識差となった。</p>	<p>・高度な事業から身近で楽しく取り組めるように、広範囲の協働事業の企画立案、活躍の場づくりが重要だと思う。</p> <p>・市民(NPO)提案は、連携・協働が必要な相手は本当に行政なのか、きちんと判断する機関が必要だと思う。</p> <p>・提案時期について、年2回(上期・下期)とならないか。</p> <p>(*その他:「全体像がつかめない」など3件あり)</p>	<p>・行政から事業提案した場合、結局行政主導となってしまうのではないか。</p> <p>・提案の場を活用することは、受益者としての市民満足度の観点ではなく、関わった市民の満足度が高まることによって、人材資源の発掘と育成につながると思う。</p> <p>(*その他:「事業提案を行なうことによって信頼関係を構築することが有効」など2件あり)</p>
		行政	0.74			
		差	0.37			